

- ⑩ 試合の途中、降雨、日没等で試合続行が不可能となった場合は、5回以降で得点差があるときは、正式にゲームが成立したものとし、同点もしくは5回を終了していないときは抽選とする。
- ⑪ 投手は変化球を投げてはいけない。
- ⑫ 健康維持を考慮し、4回終了後、5分間の休息をとる。(試合時間には含めない。)
- ⑬ 投手の投球回数制限について
 - 1) 投手の投球イニング数については、健康維持を考慮し、一日6イニングまでとする。
 - 2) 投球イニングに端数が生じた場合の取り扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したものと数える。
- ⑭ 守備側の監督は、故意四球を企図する時、その旨を球審に申告することができる(申告敬遠)。打者に投球しなくても、打者に対して四球を与えた事とし、打者は一塁へ進む。球審は、攻撃側監督にその旨を通告する。
- ⑮ 監督が投手のところに行く回数の制限(タイムは1分以内を限度とする。)
 - (1) 監督が1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内とする。
なお、決勝戦のみタイブレークは、1イニングに1回行くことができる。
 - (2) 監督が、同一イニングに同一投手のもとに2度行くか、行ったとみなされた場合(伝令を使う捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のもとへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代交代しなければならない。交代した投手は、他の守備位置につくことが出来る。
なお、他の守備位置についたときは、同一イニングには再び投手に戻れない。
- ⑯ 守備側のタイムの回数制限(タイムは1分以内を限度とする。)
捕手または内野手が、1試合に投手のもとに行ける回数は、3回以内とする。なお、決勝戦のみタイブレークは、1イニングに1回行くことができる。野手(捕手も含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督のみ回数に含まない。
- ⑰ 攻撃側のタイムの回数制限(タイムは1分以内を限度とする。)
攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。
なお、決勝戦のみタイブレークは、1イニングに1回行くことができる。
- ⑱ 攻守交代のときは、球をマウンドに投げずに、必ず投手板上か、その付近に置いてくること。
- ⑲ ファウルボールの球の処理については、一塁側に止まったものは、一塁側のチームが拾う。三塁側に止まったものは、三塁側のチームが拾う。捕手の後方のものは攻撃側のチームが拾う。
- ⑳ 試合のスピード化を図るため、内野手間の転送球を禁止する。
- ㉑ ベンチに入っている監督やコーチ等が、審判員や相手チームのプレイヤーはもちろん、自チームの選手に対しても手をかけることを厳禁する。退場処分とする。
- ㉒ 審判員や相手チームに対する聞き苦しい野次は厳禁する。又、自チームの選手に対しても聞き苦しい言葉は使ってはならない。
- ㉓ 投手が投球練習するときは、危険防止のため捕手は装具を全てを着用すること。(装具を着用していない場合は、立って捕球すること。)
- ㉔ ベンチ内のメガホンは、1個に限り許可する。
- ㉕ ベンチ入りの監督、コーチ、スコアラーは、試合開始から試合終了時までやむを得ない理由がない限りベンチからでてはいけない。又、ベンチ内でのタバコ、ガム等は禁止する。
- ㉖ 大会本部や相手チームへの挨拶は不要である。(応援団への挨拶は奨励)
- ㉗ 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、その程度を問わず臨時代走の処置を行う。
- ㉘ 投手に関する12秒ルール及び20秒ルールは適用しません。
- ㉙ 本規定に定めていない事項については、全日本軟式野球連盟(JSBB)に定める規定規則、取決め事項によることとする。